

7 商社の 2012 年 3 月期第 2 四半期連結決算から

7 社の本年度第 2 四半期連結決算発表が、10 月末から 11 月初めに行われた。決算では、6 社が増益となり、12 年 3 月期通期予想は、7 社とも先行きに不透明感が残るものの、増益を見込んでいる。以下で、7 社の第 2 四半期連結累計期間(2011 年 4 月～9 月)における決算概要を紹介する。

(注) 7 社は伊藤忠商事、住友商事、双日、豊田通商、丸紅、三井物産、三菱商事で、当会の正副会長会社

【売上】

2011 年 4～9 月期の世界経済は、アジアの新興国等にけん引される形で緩やかな回復基調にあったものの、欧米先進国で経済の下振れ懸念が高まり、アジア新興国で金融引き締めの影響や欧米の外需伸び悩みを受けて成長鈍化の兆しが表れていた。そのような経済環境下、当第 2 四半期連結累計期間の商社の売上高は、緩やかな景気回復を背景に商品市況の上昇の影響も加わり、前年同期と比較して 7 社中 6 社が増加、1 社が横ばいとなり、7 社合計で 35.5 兆円(前年同期比 6.4%増)となった。

7 商社の第 2 四半期連結累計 業績表

(単位: 億円、%)

| | 当上半期 | 前年同期 | 増減 | 増減率 |
|------------|---------|---------|--------|------|
| 売上高 | 355,150 | 333,790 | 21,360 | 6.4 |
| 売上総利益 | 25,473 | 24,554 | 919 | 3.7 |
| 販売費及び一般管理費 | 17,457 | 17,280 | 177 | 1.0 |
| 営業利益 | 7,912 | 7,187 | 724 | 10.1 |
| 金融収支 | 1,191 | 850 | 341 | 40.1 |
| 当期純利益 | 9,290 | 7,707 | 1,583 | 20.5 |

【損益】

売上総利益は、前年同期と比較して 5 社増加、2 社減少、7 社合計で 2.5 兆円(前年同期比 3.7%増)となった。

販売費および一般管理費は、2 社が負担減となり、5 社が負担増であった。

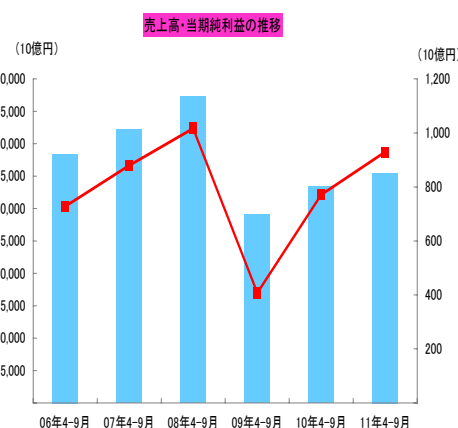
本業のもうけを示す営業利益は、5 社が増加、2 社が減益となり、7 社合計で 7,900 億円(同 10.1%

増)となった。

金融収支については、受取配当金が 6 社増加、1 社減少となり、金利収支の赤字をカバーし、金融収支としては 6 社が黒字、1 社が赤字となり、7 社合計で 1,200 億円(同 40.1%増)となった。

当期純利益については、6 社が前年同期を上回り、1 社が下回る結果となり、7 社合計で 9,300 億円(同 20.5%増)となった。

7 商社の第 2 四半期連結累計 売上高・純利益



【通期業績見通し】

世界経済は、欧米経済の減速感に加え、中国などアジア新興国に景気鈍化の兆候が表れ、欧州債務問題等による国際金融市場における不確実性は依然として払拭されず、先行きに不透明感が残るものの、各社とも第 2 四半期まで業績をけん引してきたビジネスが第 3 四半期以降も堅調に推移していくと見ている。

2011 年度通期の業績見通しは、4 社が修正し、3 社が期初から変更をしておらず、7 社とも増益を見込んでいる。ただし、タイ洪水の影響や資源価格の下落などが下振れ要因として懸念される。

ちなみに、当第 2 四半期連結累計期間の 7 社合計の純利益は、9,300 億円となり、7 社の通期連結業績見通し(1 兆 6,220 億円)に対する進捗率は 57.3%を達成している。

(調査グループ 関谷裕介)